

コーパスを用いた母語話者による動詞の使用実態の考察と教育的示唆

―動詞 recommend を例として―

A Corpus-Based Analysis of Verb Complement Selection,
concerning ‘recommend’

長崎大学多文化社会学部コーチングフェロー 林田 朋子

長崎大学 言語教育研究センター 西原 俊明

Abstract : This study utilizes computerized corpora and linguistic software to investigate and reveal the gap between the description of verb usage in dictionaries for Japanese learners of English and actual usage by native speakers of English. This article aims to clarify the usage frequencies of verb complements, focusing on the verb *recommend*. Regarding complement selection, the following three complement types are possible: *recommend+V-ing*, *recommend+that-clauses* and *recommend+NP+to-infinitives*. Through the analysis of the complement types that follow the verb, it was found out that the most frequently used syntactic sequence is *V-ing*, and that the least frequently used sequence used by native speakers of English is *NP+to-infinitive*. This sequence is frequently used by Japanese learners of English, according to our learner’s corpus research. Based on the results of our corpus research, this study suggests that the effectiveness on Data-Driven Learning (DDL) and pattern practices be important and necessary so that Japanese learners of English can internalize the information about complement selection.

1. はじめに

英語教育におけるコミュニケーション能力の向上が指摘される中、語彙習得の重要性はますます高まってきている。コミュニケーション能力とは、文法能力のみならず、話し手と聞き手の関係や慣習を背景とした社会言語的文脈の中で言語を運用する能力を重要な要素として含む (Canale and Swain 1980)。このようなコミュニケーション能力を養うためには、文章を書き、自分の伝えたいことを話

す際に使用する語彙力を強化する必要があるだろう。そのためには、英単語と日本語の意味をつなぎ合わせるだけの語彙指導ではなく、「語と語の間における、語彙、意味、文法等に関する習慣的な共起関係」(堀 2009: 7)であるコロケーションに配慮した語彙指導が必要である。つまり、英語母語話者にとって自然に聞こえる語の組み合わせや、動詞であれば、慣習的に使用頻度の高い文法的後続要素、社会的文脈を背景とした高頻度の共起語やその使用域、を含めた語彙情報は学習者のコミュニケーション能力を高める目的に寄与するのではないと思われる。例えば、動詞 recommend は複数の統語範疇化情報を有するために、英語学習者にとって習得が困難であると考えられる。動詞 recommend は、「～を推奨する、～することを勧める」、などの意味を持つ伝達動詞であり、①名詞／名詞句 (NP)、②名詞相当句としての動詞の ing 形 (動名詞)、③ that 節補文、④ to 不定詞の主語として for をとる形、⑤目的語に NP と to-不定詞をとる形が後続可能である (小西・南出 2001)。

- ① recommend + NP
- ② recommend + V-ing
- ③ recommend + that 補文
- ④ recommend + for + NP +to-不定詞
- ⑤ recommend + NP + to-不定詞

堀 (2012: 63) は、Palmer (1938) を引用し、英語学習者が正確かつ効果的に語彙を使用できない理由として、学習対象の語彙が、複数の文型で使われること、また多数のコロケーションと句で使われることに言及している。つまり、前述した動詞 recommend は、複数の構文パターンを後続要素としてとることができる為、学習者にとって習得が困難であると考えられる。特に、従来の英文法学習と語彙学習が切り離されて行われる学校英語教育においては、単語帳を使用し recommend = 「推奨する、勧める」のように学習することが多く、その構文パターンを含めた使用方法を考慮した学習が行われていると言いはし難い。その結果、単語の意味は覚えているが場面に即した形で使うことができない、という状況が生じているように思われる。このような学習者が、単語の使用法に困難を感じたときに手に取るのが、一般的な英和辞典、英英辞典、文法書や参考書である。しかしながら、辞書や参考書にも、これらの複数ある構文パターンが母語話者によってどのように使用されているのかという情報が十分に反映されているとは言えない状況にある。¹そこで本稿では、学習者による理解、辞書や参考書による

記述、母語話者による使用の実態に差があると考えられる、動詞 recommend を例にとり、大規模コーパスである COCA (Corpus of Contemporary American English)、GloWbE (Global Web-Based English)、及び COHA (Corpus of Historical American English) を用いて、そのコロケーションの実態を明らかにし、教育的示唆を与えることを目的とする。

まず、第2節では、学習者コーパスを用いて、学習者による動詞 recommend の使用状況を確認する。第3節では、学習者が語彙学習で一般に使用されると思われる辞書や文法書における、動詞 recommend の記述について概観する。第4節では、動詞 recommend の母語話者による使用の実態を明らかにすることを目的とし、大規模コーパスを用いて下記の問いに答える。

- [1] 最も高頻度で使用される構文パターンはどれか。
- [2] 話し言葉と書き言葉の算出モードにおいて使用頻度に違いはあるか。
- [3] アメリカ英語とイギリス英語における使用域において使用頻度に差はあるか。
- [4] 構文パターンごとに時代別の使用変化はみられるか。
- [5] 典型的な共起語にはどのようなものがあるか。

第5節では、第4節の結果の記述と考察を行う。第6節では、調査結果を踏まえた教育的示唆として、具体的な指導案を提示する。

2. 日本人英語学習者コーパスにおける recommend の使用状況

複数の統語構造を下位範疇化情報としてもつ動詞 recommend は、英語学習者にとって使いこなすのが難しい単語と考えられる。日本人英語学習者は recommend をどのように使用しているのだろうか。日本人英語学習者を対象とした書き言葉コーパスにおいて、動詞 recommend の使用状況を確認する。まず Japanese EFL Learner (JEFL) コーパスを見てみよう。JEFL は、6種類のトピックを用い、中上級レベルの中学生および高校生を対象とした書き言葉コーパスである(投野編 2007)。**【表1】**が示すとおり、JEFL において動詞 recommend の使用は5件観察された。(1)–(5)は5件の recommend を使用した文章の一部である。(1)は recommend の後続要素として直接 to-不定詞を使用しており、非文法的な文章であることがわかる。(2)は一部の辞書や参考書では許容されている recommend + NP + to 不定詞の形をとっている。(3)と(5)は、recommend + NP の形であり、(4)は、recommend に that 補文をとり、should が省略され原型動詞 eat がくる形であるが、直接目的語 you を that 補文の前に使用していることから文

法的に誤った文である。5 件中 2 件が非文法的な文であり、1 件は母語話者にとって使用頻度の低い構文パターンを用いた文であった。*（アスタリスク・マーク）は、非文法的な文章を示している。

【表 1】 JEFLC コーパスにおける動詞 recommend の使用状況

(1)	*But I strongly <i>recommend to sleep</i> more.
(2)	That's why I <i>recommend you to eat</i> Japanese style breakfast in morning.
(3)	I <i>recommend</i> it.
(4)	*However, I <i>recommend you that you eat</i> rice for every day morning.
(5)	if you think seriously about what to do in such a case, you should bring things which the government <i>recommends</i> .

次に、日本人の大学生および大学院生の学習者コーパスである NICE (Nagoya Interlanguage Corpus of English) を用いて動詞 recommend の使用状況を見てみよう。NICE コーパスは、大学生および大学院生の11種類のトピックに基づいて書かれた英作文を集めたコーパスである（赤野他編 2014）。日本語話者（JSN）の英作文に対し、英語母語話者（NTV）による添削がついている。(6)–(8)は、NICE コーパスで動詞 recommend を検索した結果である。recommend を使用した文章は 3 件確認された。まず、(7)は to-不定詞を直接後続要素として用いていることから文法的に誤った文であり、母語話者によって recommend + 動名詞の形に訂正されていることがわかる。(8)は that 補文を誤って使用している。一方、(6)は recommend + NP + to-不定詞の形をとり、辞書的な用法からすれば文

【表 2】 NICE コーパスにおける動詞 recommend の使用状況

(6)	(JSN)	I think doing sports is good and I <i>recommend you to do</i> some sports to make your life better.
	(NTV)	Therefore, I think doing sports is good, I <i>recommend you do</i> some sports to make your life better.
(7)	(JPN)	*For example, many of teachers <i>recommend to go to</i> an university after graduating from a high school.
	(NTV)	For example, many teachers <i>recommend going to</i> a university after graduating from high school.
(8)	(JPN)	*Today, I would like to tell you, the good points of any kind of sports, and <i>recommend you that you that you get engaged</i> in sports.
	(NTV)	Today, I would like to tell you the good points of any kind of sports and <i>recommend that you get engaged</i> in sports.

法的に正しい文章のようにも見受けられる。しかし、例文(6)は母語話者からは添削の対象となっており、that 補文の that を省略した形である recommend + (that) + NP + 原形動詞、に訂正されている。このことから、母語話者にとって recommend + NP + to do が使用頻度の低い、非定型的な形であると捉えられていることが推測される。このように、動詞 recommend の下位範疇化情報は、使用方法や母語話者による使用頻度を反映した形で、日本人英語学習者に十分に理解され、使用されている状況にはないと考えられる。この原因の一つとして、学習者が手に取る辞書や参考書による記述の不十分さがあげられる。次章では、動詞 recommend の辞書における記述を概観する。

3. 辞書や参考書における記述

3.1 辞書における記述

第2節では、学習者コーパスによる検索結果から、日本人英語学習者は動詞 recommend を十分に使いこなせていない傾向にあることがわかった。理由の一つとして、語彙学習や語彙指導の際に使用される辞書や参考書による記述の不十分さがあげられる。近年、『ウィズダム英和辞典』（井上・赤野編 2012）のようなコーパス情報を用いた辞書がいくつか出版されるようになったが、学習者に広く普及しているとは言い難い。そこで、本稿では複数の辞書や学習者用教材において recommend がどのように記述してあるのかを概観する。特に、学習者コーパスにおいて観察された recommend + NP + to 不定詞の形は、母語話者によって、that 補文をとる形に訂正されていたことから、この点に焦点をあて、辞書や参考書の記述を見ていくことにする。

まず、代表的な英和辞典である、『ジーニアス英和大辞典』（小西・南出 2001）における動詞 recommend の記述を見てみよう。以下は、辞書記述より一部抜粋し簡略化したものである。下記の記述によれば、動詞 recommend がとる構文の中で、recommend + NP + to-不定詞の形は、英国で使用されている表現であると理解できる。

recommend (他動詞)

1. [SVO] <人が> (人・物・事) を […として／…に適していると] 推奨する [as/for] ; [SVO₂ to O₁ to / <英> O₁ O₂] O₁ <人> に O₂ <人・物・事> を推薦する

(用例) We do have the roast lamb, though. I can recommend that.

2. [SVO] 〈人が〉〈事〉を奨励する；[SV doing/that 節；＜米非標準＞SV for O to do／＜英＞SVO to do] …することを勧める、忠告する (suggest, advise)；[伝達動動詞]「…」と言って奨励する

(用例) I'd recommend studying English.

She recommended his quitting smoking. = She recommended that he (should) quit smoking. = ＜英＞She recommended him to quit smoking.

(1) that 節の中では＜主に米＞では仮定法現在、＜主に英＞では should を用いる。＜英略式＞では直説法 quit(ed).

(2) 受け身は He was recommended to quit smoking. の他に It was recommended that he (should) quit smoking. の型も可。

次に、代表的な英英辞書である Oxford English Dictionary (OED)、Cambridge English Dictionary (CED)、Macmillan English Dictionary (MED)、Longman Dictionary of Contemporary English (LDCE)、における動詞 recommend の用例を用いて、その典型的な文法パターンを確認する。ここでは、オンラインの例文を用いている。

- (9) I strongly *recommend reading* it yourself to make your own judgement about what it says. (OED)
(10) I *recommend writing* your feelings down on paper. (CED)
(11) We *recommend booking* early, as this is a popular event. (MED)
(12) I would never *recommend using* a sunbed on a regular basis. (LDCE)

(9)–(12)の用例が示すように、recommend + 動名詞句が一つの典型的文法パターンとして挙げられていることがわかる。このパターンに加え、(13)–(16)の例に見られるように、動詞 recommend の後に that 節をとる形も典型的な形として認められる。

- (13) I strongly *recommend that* everybody treat themselves to a nice evening out once in a while. (OED)
(14) I *recommend that* you buy a more powerful computer. (MED)
(15) The doctor *recommended* (that) I get more exercise. (CED)
(16) Doctors strongly *recommend that* fathers should be present at their baby's

birth. (LDCE)

一方、(17)–(19)は、recommend + NP + to-不定詞に関する各辞書による記載のばらつきを示している。まず Cambridge English Dictionary にはこの形は明記されていない。特筆すべきは、用例として挙げられている文章のうち、肯定文での用例は Oxford Dictionary においてのみであり、他の2つの辞書においては、(18)(19)の例のように受動態での用例のみが記載されている点である。Longman Dictionary においては recommend + NP + to-不定詞の形を容認しつつ、例文では受動態の文のみを取り上げており、能動態の文については「×Don't say: I recommend her to speak to a lawyer.」と明記し、肯定文での recommend + NP + to-不定詞の使用を否定している。

- (17) We strongly recommend you girls out there to treat yourself to something nice for Christmas. (OED)
- (18) Students are recommended to read the following books. (MED)
- (19) Students are recommended to make an appointment with a counselor. (LDCE)

辞書における recommend がとる構文パターンに関する記述を概観すると、動詞 recommend の典型的構文パターンは、recommend + 動名詞、recommend + that 補文、recommend + NP + to-不定詞の受動態であり、recommend + NP + to-不定詞の肯定文は、一般的ではない形であることが推測される。それでは、代表的な文法書や学習者用テキストにおいて、recommend はどのように説明されているのだろうか。次章では、文法書や学習者用テキストにおける、動詞 recommend の記述について概観する。

3.2 文法書や学習者用テキストにおける記載

まず、学習者が一般的に使用する英文法書である *Practical English Usage* (Swan 2005: 258) においては、recommend を「動詞 + NP + to-不定詞」を用いる単語として動詞 want や allow などと同じグループに分類している。また、多くの英語学習者が使用する英文法テキストである *Advanced Grammar in Use* (2012) においても、recommend が NP + to-不定詞を後続にとる動詞として advise や ask などと共に紹介されている。他方、日本語の文法書である『徹底例解ロイヤル英文法』(2000: 492) においては、to-不定詞をとる形はイギリス英語

である旨の説明が、以下の例文を用いて記載してある。

(20) She recommended me to meet Professor Kay. <英>

(21) She recommended to me that I (should) meet Professor Kay. <米>

更に、日本の高校生が用いる代表的な文法書である『総合英語 Forest』（2006）では、recommend は that 節を従える「提案・要求」を表す動詞として説明されており、to-不定詞をとる形については触れられていない。このように、英語学習者が手に取る辞書や、学習者用テキストなどにおいては、recommend の使用方法に関する一貫した説明がなされているようには思えない。そこで、次章では大規模コーパスを用いて、動詞 recommend の下位範疇化情報を、実際の「母語話者による使用」という観点から明らかにしていく。

4. 大規模コーパスを用いた動詞 recommend の構文パターンの実態

ここでは、大規模コーパスである COCA (Corpus of Contemporary American English)、GloWbE (Global Web-Based English)、及び COHA (Corpus of Historical American English) を用いて、recommend の実際の言語運用における構文パターンについて明らかにする。検索には、CORPUS.BYU.EDU 上のオンラインインターフェースを用いた。

4.1 構文パターン別頻度調査

まず、recommend が取る構文パターン別の頻度差について大規模コーパスである COCA を用いて見てみよう。COCA は、アメリカ現代英語を想定母集団とした、大規模均衡コーパスであり、spoken、fiction、magazine、newspaper、academic の 5 つのサブコーパスを有する。COCA を用いて、recommend の構文パターンを検索した結果、recommend + that 節は 378 件、recommend + 動名詞は 1653 件認められた。一方 recommend + NP + to-不定詞の構文パターンは 23 件の使用が認められた。さらに、recommend の that 補文の that が省略された形である recommend + NP + 動詞の原形は 257 件、that の後に助動詞 should が後続する形は 8 件認められた。以上のことから、recommend で使用される構文パターンの使用頻度の順位をみると、【表 3】のようになる。

【表3】 recommend の構文パターンとその頻度

recommend	+ 動名詞	1653件
	+ that 補文	378件
	+ (that) + NP + 原形動詞	257件
	+ NP + to 不定詞	23件
	+ that + should + NP + 原形動詞	8 件

【表3】が示すように、recommend + 動名詞 > recommend + that 節 > recommend + (that) + NP + 動詞の原形 > recommend + NP + to-不定詞 > recommend + that 節(should) + NP + 原形動詞の順に使用頻度が高いことが分かる。

4.2 産出モード別頻度調査

次に、recommend に後続する構文パターンについて、話し言葉と書き言葉という産出モードによる違いがあるかどうかについて見てみよう。ここでは、COCA による頻度が一番高かった recommend + 動名詞と2番目に頻度が高い recommend + that 節の形、さらに recommend + to 不定詞の構文パターンについて、100万語あたりの出現頻度を比較する。COCA では、前述したとおり spoken、fiction、magazine、newspaper、academic の5つのサブコーパスを有しており、PER MIL は100万語あたりの出現頻度を示している。以下 PER MIL は、数字/MIL と記述する。

【表4】は recommend + 動名詞の形における、産出モードにおける出現頻度を示している。spoken(1.76/MIL)に対し、fiction(0.57/MIL)、magazine(15.38/MIL)、newspaper(6.24/MIL)、academic(5.18/MIL)であり、書き言葉による使用頻度が高いことがわかる。特に magazine での使用頻度が高い傾向にある。また、recommend + that 補文の形においても、spoken(3.91/MIL)、fiction(0.98/MIL)、magazine(8.80/MIL)、newspaper(5.53/MIL)、academic(9.38/MIL)であり、書き言葉による使用が多いことがわかる。一方、recommend + NP + to-不定詞の構文パターンにおいては、spoken(0.08/MIL)、fiction(0.06/MIL)、magazine(0.04/MIL)、newspaper(0.07/MIL)、academic(0.03/MIL)であり、5つのサブコーパス間で比較をすると、spoken でより多く使用される傾向にあることがわかる。COCA による産出モード別の検索結果から、動詞 recommend に後続する文法パターンにおいて、recommend + 動名詞、recommend + that 節は相対的に書き言葉でより多く使われており、recommend + NP + to-不定詞は話し言葉でより多く使用されていることがわかった。

【表 4】 recommend+動名詞の産出モード別頻度

Corpus of Contemporary American English				
SEARCH	CHART		CONTEXT	ACCOUNT
SECTION (CLICK FOR SUB-SECTIONS) (SEE ALL SECTIONS AT ONCE)	FREQ	SIZE (M)	PER MIL	CLICK FOR CONTEXT (SEE ALL)
SPOKEN	192	109.4	1.76	
FICTION	60	104.9	0.57	
MAGAZINE	1,699	110.1	15.38	
NEWSPAPER	661	106.0	6.24	
ACADEMIC	536	103.4	5.18	

【表 5】 recommend+that 節の産出モード別頻度

SECTION (CLICK FOR SUB-SECTIONS) (SEE ALL SECTIONS AT ONCE)	FREQ	SIZE (M)	PER MIL	CLICK FOR CONTEXT (SEE ALL)
SPOKEN	428	109.4	3.91	
FICTION	103	104.9	0.98	
MAGAZINE	969	110.1	8.80	
NEWSPAPER	586	106.0	5.53	
ACADEMIC	970	103.4	9.38	

【表 6】 recommend+NP+to-不定詞の産出モード別頻度

SECTION (CLICK FOR SUB-SECTIONS) (SEE ALL SECTIONS AT ONCE)	FREQ	SIZE (M)	PER MIL	CLICK FOR CONTEXT (SEE ALL)
SPOKEN	9	109.4	0.08	
FICTION	6	104.9	0.06	
MAGAZINE	4	110.1	0.04	
NEWSPAPER	7	106.0	0.07	
ACADEMIC	3	103.4	0.03	

4.3 イギリス英語とアメリカ英語における頻度調査

前節では、動詞 recommend がとる典型的な構文パターンと、産出モードにおける使用頻度の違いを明らかにした。この節では、イギリス英語とアメリカ英語の違いについて述べる。アメリカ英語を想定母集団とする COCA をもちいて頻度検索を行った結果、recommend+NP+to-不定詞の構文パターンは、母語話者にとって使用頻度の低い形であることが明らかになった。この構文パターンの使用に、アメリカ英語とイギリス英語による言語的地域差は見られるだろうか。前述したように、『ジーニアス英和大辞典』（小西・南出 2001）や『徹底ロイヤル英文法』（2006）においては、recommend+NP+to-不定詞をとる形はイギリス英語である旨の説明がある。この点について、to-不定詞をとる形態はイギリス英語に見られる特有の表現方法であるかどうかについて、GloWbE を用いて検証する。【表 7】は GloWbE での米英語と英英語における recommend+NP+to-不定詞の検索結果の一部である。(20)が示す通り、アメリカでは138件、イギリスで

は145件が認められ、100万語あたりの出現率がそれぞれ0.37と0.36であることから、その差の有意性は低いと考えられる。したがって、recommend の to-不定詞を後続要素としてとる形は、イギリス英語に特有のものであるということは考えにくい。

【表7】米英語と英英語における recommend+NP+to-不定詞の頻度比較

Corpus of Global Web-Based Engl			
SEARCH			
SECTION	FREQ	SIZE (M)	PER MIL
GENERAL	1,017	1,299.5	0.78
BLOG	530	583.7	0.91
United States	138	386.8	0.36
Canada	40	134.8	0.30
Great Britain	145	387.6	0.37

4.4 構文パターンの時代別頻度調査

最後に recommend の構文パターンの使用頻度が、時を経て変化してきたものかどうかを見るために COHA を用いて検証する。COHA はアメリカ英語を想定母集団とし1810年から2009年までのデータを収集した、時代比較を行うために作られた時系列コーパスである。

【表8】【表9】【表10】は、recommend が後続にとる構文パターン recommend + 動名詞、recommend + that 節、recommend + NP + to-不定詞のそれぞれの時代別頻度を示したものである。これらの検索結果からわかることは、recommend + NP + to-不定詞は1800年代には使用されていたが、その後1900年代から使用頻度が減っており、対照的に recommend + 動名詞のパターンは、1900年代以降から現在にかけて、その使用頻度が増加しているということである。recommend + that についても、使用頻度が増加していることが確認できる。つまり、recommend + NP + to-不定詞の形は、現在では母語話者による使用頻度の低い、非一般的な構文パターンであると言える。

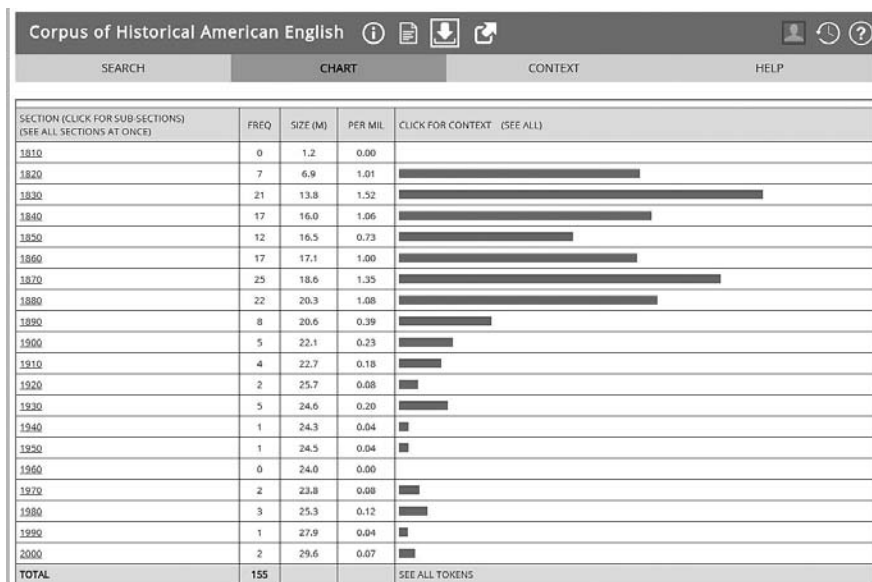
【表 8】 recommend+動名詞の時代別頻度

Corpus of Historical American English ⓘ 📄 ⬇️ ↺					👤 ⌚ ?
SEARCH	CHART		CONTEXT		HELP
SECTION (CLICK FOR SUB-SECTIONS) (SEE ALL SECTIONS AT ONCE)	FREQ	SIZE (M)	PER MIL	CLICK FOR CONTEXT (SEE ALL)	
1810	0	1.2	0.00		
1820	3	6.9	0.43		
1830	3	13.8	0.22		
1840	8	16.0	0.50		
1850	12	16.5	0.73		
1860	7	17.1	0.41		
1870	1	18.6	0.05		
1880	1	20.3	0.05		
1890	1	20.6	0.05		
1900	2	22.1	0.09		
1910	2	22.7	0.09		
1920	7	25.7	0.27		
1930	19	24.6	0.77		
1940	13	24.3	0.53		
1950	19	24.5	0.77		
1960	20	24.0	0.83		
1970	34	23.8	1.43		
1980	67	25.3	2.65		
1990	133	27.9	4.76		
2000	164	29.6	5.55		
TOTAL	516			SEE ALL TOKENS	

【表 9】 recommend+that 節の時代別頻度

! Corpus of Historical American English ⓘ 📄 ⬇️ ↺					👤 ⌚ ?
SEARCH	CHART		CONTEXT		HELP
SECTION (CLICK FOR SUB-SECTIONS) (SEE ALL SECTIONS AT ONCE)	FREQ	SIZE (M)	PER MIL	CLICK FOR CONTEXT (SEE ALL)	
1810	1	1.2	0.85		
1820	4	6.9	0.58		
1830	6	13.8	0.44		
1840	9	16.0	0.56		
1850	9	16.5	0.55		
1860	12	17.1	0.70		
1870	17	18.6	0.92		
1880	7	20.3	0.34		
1890	5	20.6	0.24		
1900	11	22.1	0.50		
1910	9	22.7	0.40		
1920	34	25.7	1.33		
1930	26	24.6	1.06		
1940	29	24.3	1.19		
1950	45	24.5	1.83		
1960	32	24.0	1.33		
1970	44	23.8	1.85		
1980	70	25.3	2.77		
1990	68	27.9	2.43		
2000	88	29.6	2.98		
TOTAL	526			SEE ALL TOKENS	

【表10】 recommend+NP+to-不定詞の時代別頻度



4.5 コーパスを用いた recommend の共起動詞の比較

動詞 recommend は、どのような動詞を共起語としてとることが多いのだろうか。また、構文パターンごとに共起語としてとる動詞に違いはあるだろうか。【表11】は、COCA を用いて、recommend+動名詞と that 補文で用いられる共起語を検索し、特に高頻度に共起する動詞10位までをリストにしたものである。rec-

【表11】 頻出共起動詞トップ10

	recommend + 動名詞	粗頻度	recommend + that 補文	粗頻度
1	use	366	be	624
2	take	113	(should)	126
3	buy	65	do	99
4	get	65	take	96
5	start	55	have	81
6	add	53	use	78
7	do	53	get	76
8	keep	52	go	48
9	have	51	consider	41
10	go	40	try	36

ommend+動名詞は右1語以内、recommend+that補文は右4語以内に共起する動詞を検索した。【表11】が示すとおり、recommend+動名詞と、recommend+that補文の二つの構文パターンにおける後続要素としての共起動詞の半数は重複している。具体的には、use/take/get/have/goがどちらの構文パターンにも用いられている共起動詞であることがわかる。顕著な違いは、that補文のパターンにはbe動詞が共起動詞として最も多く出現していることである。recommend+動名詞の形にbe動詞が共起するパターンであるrecommend being～という表現形はCOCAでは8件見られるのみであった。

それでは、that補文にbe動詞が共起する形の例文を見てみよう。下記の例文①～②のように、ある状態や状況にあることが求められているときに、that+主語+be+（過去分詞／形容詞）が用いられていることがわかる。

- ① Mr. Schlanger *recommended that guards be taught* how to ask more probing questions of passengers and to watch for suspicious behavior. (COCA, newspaper)
- ② Cathcart-Ross *recommends that kids be* responsible for filling at least some of their downtime themselves. (COCA, magazine)

次に、recommend+動名詞に共起頻度が高いuseの例文を見てみる。例文③～⑤のように、何らかの専門家やそれをよく知る人間が、何かを根拠に、ある製品やツールを使用することを勧める場合にrecommend using～のパターンが使われることが多いことがわかる。

- ③ Dermatologists *recommend using* a sunscreen with an SPF of thirty or higher to block ninety-seven percent of harmful rays.(COCA, spoken)
- ④ Chef Bunyarataphan *recommended using* Thai black soy sauce (not to be confused with the Chinese dark sauce), which adds a nice dark color even to quick stir-fry dishes. (COCA, newspaper)
- ⑤ The Federal Trade Commission *recommends using* a virtual private network to protect your sensitive information when you are using WiFi hotspots. (COCA, magazine).

【表12】は、recommend+動名詞の構文パターンにおける主語となる名詞を検索した結果である。検索結果が示すように、expert、Dr～、editor、report、com-

mission、doctors、association、committee、researchers、manufactures が前置することが多いことが確認された。このことから、動詞 recommend は、何らかの知識を持つ専門家が、ある物や事を推奨する際に典型的に使用されることがわかる。

【表12】 recommend+動名詞に前置する名詞（左4語以内）のコロケーション

順位	名詞	粗頻度
1	experts	104
2	Dr～	53
3	editor	32
4	report	32
5	commission	29
6	doctors	27
7	association	21
8	committee	21
9	researchers	17
10	manufactures	16

	CONTEXT	FREQ	ALL	%	MI	
1	<input type="checkbox"/> EXPERTS	104	35576	0.29	6.96	
2	<input type="checkbox"/> DR	53	102291	0.05	4.46	
3	<input type="checkbox"/> EDITOR	32	44562	0.07	4.93	
4	<input type="checkbox"/> REPORT	32	96982	0.03	3.81	
5	<input type="checkbox"/> COMMISSION	29	36091	0.08	5.09	
6	<input type="checkbox"/> DOCTORS	27	37579	0.07	4.93	
7	<input type="checkbox"/> ASSOCIATION	21	58278	0.04	3.94	
8	<input type="checkbox"/> COMMITTEE	21	59523	0.04	3.91	
9	<input type="checkbox"/> RESEARCHERS	17	41431	0.04	4.12	
10	<input type="checkbox"/> MANUFACTURERS	16	11848	0.14	5.84	
11	<input type="checkbox"/> DOCTOR	16	52335	0.03	3.70	
12	<input type="checkbox"/> ADVISERS	14	6357	0.22	6.55	
13	<input type="checkbox"/> AUTHORS	14	19313	0.07	4.94	
14	<input type="checkbox"/> PANEL	14	23642	0.06	4.65	
15	<input type="checkbox"/> TASK	12	39035	0.03	3.71	

5. 結果と考察

日本人英語学習者コーパスを用いて、動詞 recommend の習得状況を確認した結果、その構文パターンを正しく習得できていないことや、母語話者にとって使用頻度の低い構文パターンを用いるケースが確認された。これに対し、学習者が使用する辞書や参考書における記述は、動詞 recommend の構文パターンについて母語話者の使用実態を十分に反映しているとは言えず、各辞書や参考書により

ばらつきがあることが認められた。以上のことから、母語話者による動詞 recommend の使用実態を明確にする必要があると考え、大規模コーパス COCA を用いて調査を行った結果、以下の5点が明らかになった。

- ① recommend+動名詞が母語話者によって最も高頻度で用いられ、recommend+that 補文のパターンが次に多く用いられており、学習者コーパスにおいても観察された recommend+NP+to-不定詞のパターンは母語話者にとって低頻度の構文パターンである。
- ② 産出モードを見ると、recommend+動名詞と recommend+that 補文をとる形は書き言葉による使用頻度が高く、recommend+NP+to-不定詞の形は、相対的に話し言葉で多く用いられている。
- ③ recommend+NP+to-不定詞の形について、イギリス英語とアメリカ英語における使用頻度に顕著な違いは見られない。
- ④ いくつかの辞書で文法的には正しい用法として記述してあった recommend+NP+to-不定詞の形は、歴史的には1800年代に多く使用され、1900年代には使用が減少していることが明らかになった。つまり、recommend+NP+to-不定詞の形は、現在では英語母語話者にとって一部の話者によって口語で主に使用される、使用頻度の低い形式であることがわかった。
- ⑤ recommend がとる共起動詞を調査した結果、構文パターンにより、典型的に共起する動詞には違いが見られた。that 補文の形では be 動詞が高頻度で共起しており、recommend+動名詞の形では、動詞 use が最も高頻度で共起している。主語として共起する名詞を観察することにより、動詞 recommend は、何らかの専門知識をもった人や組織が何かを勧めたり推奨したりする状況において、典型的に使用される傾向にあることが明らかになった。

本調査で示されたような母語話者による語彙使用の実態を、英語指導者が理解することは重要であると考え。英語学習者にとって、動詞 recommend のように複数の構文パターンをとる動詞を習得することは難しい。特に、語彙の使用方法に困ったときに学習者が手に取る辞書や参考書における記述にばらつきがある際には、学習者に混乱が生じることもあるだろう。従って、英語学習を支える教師が、母語話者による語彙使用の実態を理解し、語彙指導に反映させていくことが必要であると考え。そこで6節では、コーパス検索によって明らかになった動詞 recommend の使用実態をふまえ、学習者への指導方法について示唆を行う。

6. 指導方法と教育的示唆

この節では、これまでの調査結果をふまえ、動詞 recommend を効果的に指導する方法を考察する。学習者コーパスにより得られた結果から、学習者は母語話者にとって使用頻度の低い構文パターンである recommend+NP+to-不定詞の形を用いる傾向にあることがわかった。しかし、実際によく使用される構文パターンは recommend+動名詞や recommend+that 補文であることを考えると、これらの典型的な構文パターンを理解し、使いこなせるようになるような語彙指導を行うべきであろう。また、英語学習者にとって統語処理の負担が高いほど習得が困難であることを考えると、まず recommend+NP、次に recommend+動名詞の形、最後に that 補文をとるパターンを指導することが望ましいと考える。さらに、recommend に典型的に共起する動詞を同時に教えることにより、より母語話者の言語運用に近い自然な英語を学ぶことができるのではないだろうか。以下では、具体的な指導方法として、DDL (Data-driven Learning; データ駆動型学習) と、コーパスを検索して得られた共起動詞を用いたパターン・プラクティスの活用方法について述べる。


6.1 データ駆動型学習 (DDL) の活用による構文パターン学習

DDL とは、コーパスと検索用アプリケーションソフトを用いて、学習者が単語やフレーズを検索し、それらが実際にどのように使用されているかを観察することにより、学習者自身が語法や文法を帰納的に学ぶ学習方法である (西垣他 2015)。DDL の利点としては、学習者自らが語法や文法に「気づく」ことで情報がより記憶に残りやすく、コーパスで実際の使用例に多くふれることで、単語や句のアウトプットを促す効果があることが報告されている (西垣他 2011)。動詞 recommend のように複数の構文パターンを持つ動詞については、DDL を用いることで、学習者自らが母語話者の使用の実態を発見し、より典型的な語彙の使用方法を習得できると考える。しかし、COCA などの一般的なコーパスではテキストの内容が日本人英語学習者には難しい。この点を考慮して開発されたのが、著作権をクリアした日英新聞記事対応付けデータを検索できる Web サイトである、WebParaNews である。本稿では、このサイトを利用した recommend の構文パターンの指導方法を提示する。対象となる学習者として、コンピューターを使用することができ、英語力が中上級レベルの英語学習者を想定する。

6.2 WebParaNews を用いた DDL

DDL を使用するプロセスとして、①用例観察、②共同学習、③明示的知識の共有を行う。まず、①用例観察のために WebParaNews のサイトを開き、学習者に “recommend” を検索させる（【表14】）。その際、動詞の後続要素を見やすくするために、「Sort 1」は「CEN」、「Sort 2」は「1R」、「Sort 3」は「2R」を選択するよう指示する。難しい語句の意味は、日本語の対訳で確認することができる。②共同学習として、学習者はペアやグループ活動を行い、コーパスに見られる例文をパターン別にグループ分けをする。③明示的知識を共有するために、WebParaNews での検索結果をもとに作成した構文パターンリスト（【表15】）を学習者に配布し、学習者は自らが作成したパターンリストと比較を行う。最後に、英和辞書もしくは英英辞書を使用して、学習者自らが観察し発見した構文パターンが、辞書ではどのように記述してあるかを確認する。学習者は、これらの発見学習プロセスを通じて、recommend + 名詞(名詞句)、recommend + 動名詞、recommend + that 補文、の3つの構文パターンを帰納的に学ぶことを目指す。

【表14】 WebParaNews における recommend の検索結果

WebParaNews		Other Software	About
Target Language <input checked="" type="radio"/> English <input type="radio"/> Japanese		KWIC View: <input type="radio"/> Scrolling <input checked="" type="radio"/> Parallel	Keywords: <input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No
<input type="text" value="recommend"/> <input type="button" value="Search"/>		Database: <input type="text" value="news_corpus_full"/>	Show 
Sort 1: <input type="text" value="CEN"/> Sort 2: <input type="text" value="1R"/> Sort 3: <input type="text" value="2R"/>		Sampled Hits: <input type="text" value="20"/>	
HIT	Target Corpus		
<input type="checkbox"/> 1	Therefore the agency is expected to recommend cooperation among ministries and agencies in p		
<input type="checkbox"/> 2	aw members and how much power it will recommend for the new members.		
<input type="checkbox"/> 3	opularity of books and magazines that recommend hospitals is an indication of many problems th		
<input type="checkbox"/> 4	ware but discuss sales strategies and recommend how to make PC hardware easier for beginners		
<input type="checkbox"/> 5	some facilities said they immediately recommend in-vitro fertilization for married couples in		
<input type="checkbox"/> 6	d academics worldwide who are able to recommend peace prize candidates, about 100 candidates h		
<input type="checkbox"/> 7	nel on administrative reform will not recommend splitting up Nippon Telegraph and Telephone Co		
<input type="checkbox"/> 8	a would investigate the situation and recommend suitable penalties.		
<input type="checkbox"/> 9	It used one example to recommend that each university publicize minimum scores		
<input type="checkbox"/> 10	The IMF was to recommend that Japan permanently lower the taxation rate		
<input type="checkbox"/> 11	We recommend that people working in the private sector be		
<input type="checkbox"/> 12	The agency will recommend that the Education Ministry reexamine allocati		
<input type="checkbox"/> 13	s of financial institutions, and will recommend that they adopt a system of having their		
<input type="checkbox"/> 14	courses, the ministry has decided to recommend that universities introduce a special entrance		
<input type="checkbox"/> 15	overnment on Thursday is scheduled to recommend the 1992 producer rice price, the rate at		
<input type="checkbox"/> 16	generally rule on civil disputes and recommend the amount of compensation, if any, to be		
<input type="checkbox"/> 17	ication Ministry's University Council recommend the creation of graduate distance-learning cou		

【表15】 WebParaNews をもとに作成した構文パターンの例文リスト

recommend	NP（名詞／名詞句）
	a more effective use and more stable supply
	a tutor "to help the crown prince study
	an introduction date because universities teach different levels
	an out-of-court settlement while acknowledging the legal responsibility
	cooperation among ministries and agencies in preparing assistance
recommend	動名詞
	lowering the real corporate tax rate for combined
	putting media organizations under legal obligation
	splitting up Nippon Telegraph and Telephone Corp
recommend	that 節
	that authorities study previous contaminations.
	that bilateral dialogue be reopened.
	that each university publicize minimum scores on the center exam
	that Japan permanently lower the taxation rate

6.3 共起語を用いたパターン・プラクティス

コーパスによる頻度調査と、学習者の統語処理負担を考慮して、学習者への指導順序は、① recommend + 名詞（名詞句）、② recommend + 動名詞、③ recommend + that 補文が望ましいと思われる。まず、① recommend + 名詞（名詞句）のパターンでは、ウォームアップとして、学習者に読んだことのある本や行ったことのあるレストランについて話してもらう。それらの本や、レストランを名詞（名詞句）に当てはめて、下記の例文のような文章を作成する。下線部は学習者が自分の考えを用いて文章を作成する。学習者が慣れてきた段階で、recommend と典型的に共起する副詞（【表16】）を利用して、例文(c)のように、副詞とのコロケーションを取り入れたパターン・プラクティスを行う。

recommend + 名詞（名詞句）の例文

- a. I recommend a book called "the title of the book". It's interesting/ exciting/ fascinating.

- b. I recommend a restaurant called “the name of the restaurant”. It has delicious/famous/great “the name of the menu”.
- c. I highly/ strongly/ definitely recommend “students’ ideas”.

【表16】 recommend＋動名詞と共起する副詞

	共起副詞	粗頻度
1	also	142
2	highly	32
3	strongly	18
4	generally	10
5	definitely	8

	■	CONTEXT	FREQ	ALL	%	MI	
1	<input type="checkbox"/>	ALSO	142	622180	0.02	3.28	
2	<input type="checkbox"/>	HIGHLY	32	38494	0.08	5.14	
3	<input type="checkbox"/>	STRONGLY	18	18585	0.10	5.36	
4	<input type="checkbox"/>	GENERALLY	10	41692	0.02	3.35	
5	<input type="checkbox"/>	DEFINITELY	8	25740	0.03	3.72	
6	<input type="checkbox"/>	UNANIMOUSLY	6	1778	0.34	7.16	
7	<input type="checkbox"/>	HEARTILY	3	710	0.42	7.49	
8	<input type="checkbox"/>	EXPLICITLY	3	6669	0.04	4.26	
9	<input type="checkbox"/>	NONETHELESS	3	11403	0.03	3.48	
10	<input type="checkbox"/>	ORIGINALLY	3	14277	0.02	3.16	

学習者が① recommend＋名詞（名詞句）に慣れた後に、② recommend＋動名詞の形を導入する。その際、コーパスを検索して得られた主語になりやすい名詞（【表12】）や動詞（【表11】）を利用し、ワークシートなどを作成し共同学習を行う。これらの活動を通じて、学習者は母語話者にとって自然な語彙の組み合わせや使用方法に慣れ、語彙を使いこなすことができるようになることを目標とする。

7. 結語

本稿では、複数の構文パターンを持つ動詞 recommend を例にとり、学習者の使用状況、辞書による記述、コーパスを用いた母語話者による使用方法の実態を調査した。調査の結果、学習者は動詞 recommend の使用方法を正確に理解しているとは言い難いことが確認された。また学習をサポートする辞書記述には、母語話者による使用の実態が十分に反映されておらず、各辞書や参考書によって記述にばらつきがあることがわかった。この点をふまえて、実際の母語話者による使用の実態を大規模コーパスで調査し、最もよく使用される構文パターンや共起

語を明らかにし、学習者への語彙指導に活用するための提案を行った。英単語を、単語帳を用いた機械的な学習に任せるのではなく、「語と語の間における、語彙、意味、文法等に関する習慣的な共起関係」(堀 2009: 7)を含めて指導していくことは、英語を用いたコミュニケーション能力の向上という社会の要請に応えるものであろう。このような観点から、本稿は意義あるものであると考える。しかし、コーパスによる検索結果の比較においては、統計的手法を用いたさらに詳細な分析が必要である。また、指導方法として提示した、データ駆動型学習やパターン・プラクティスについては、今後実践研究結果をふまえたさらなる検討を行いたい。

注

- ¹ 近年、井上永幸・赤野一郎編 (2012)『ウィズダム英和辞典』第3版など、コーパス情報に基づいた辞書もいくつか出版されている。

参考文献

- Canale, M., & Swain, M. (1980). Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing. *Applied Linguistics*, 1, 1-47.
- Michael Swan (2005). *Practical English Usage*. Oxford University Press.
- Martin Hewings (2013). *Advanced Grammar in Use with Answers: A Self-Study Reference and Practice Book for Advanced Learners of English*. Cambridge University Press.
- 赤野一郎・堀正広・投野由紀夫編 (2014)『英語教師のためのコーパス活用ガイド』東京：大修館書店
- 石黒昭博監修 (2013)『総合英語 Forest 7th Edition』桐原書店
- 綿貫陽・須貝猛敏・宮川幸久・高松尚弘 (2000)『ロイヤル英文法―徹底例解』旺文社
- 小西友七・南出康世編 (2001)『ジーニアス英和辞典』東京：大修館書店
- 投野由紀夫編 (2007)『日本人中高生一万人の英語コーパス：JEFLC Corpus：中高生が書く英文の実態とその分析』東京：小学館
- 西垣知佳子・小山義徳・神谷昇・横田梓・西坂高志「データ駆動型学習と Focus on Form－中学生のための帰納的な語彙・文法学習の実践－」『関東甲信越英語教育学会誌』, 2015, Vol. 29(0), pp. 113-126.
- 西垣知佳子・天野孝太郎・吉森智大・中條清美 (2011)「中・高生のためのコンコダンス・ラインを利用したデータ駆動型英語学習教材の開発の試み」『千葉大学教育学部研究紀要』, 2011, Vol. 59, pp. 235-240.
- 堀正弘 (2009)『英語コロケーション研究入門』研究社
- 堀正弘編 (2012)『これからのコロケーション研究』ひつじ書房

オンライン辞書

Oxford English Dictionary <https://en.oxforddictionaries.com/> （最終閲覧日：2017年11月30日）

Cambridge English Dictionary <https://dictionary.cambridge.org/> （最終閲覧日：2017年11月30日）

Macmillan English Dictionary <http://www.macmillandictionaries.com/about/med/> （最終閲覧日：2017年11月30日）

Longman English Dictionary <https://www.ldoceonline.com/dictionar> （最終閲覧日：2017年11月30日）

オンラインコーパス

Corpus of Contemporary American English (COCA) <https://corpus.byu.edu/coca/>

Corpus of Historical American English (COHA) <https://corpus.byu.edu/coha/>

Global Web-Based English (GloWbE) <https://corpus.byu.edu/glowbe/>

Japanese EFL Learner (JEFLL) <http://scn.jkn21.com/~jefll03/cgi-bin/login1jf.cgi>

NICE (Nagoya Interlanguage Corpus of English) http://sgr.gsid.nagoya-u.ac.jp/wordpress/?page_id=965